

# なかとんべつ 町議会だより

Volume

# 157

平成19年10月25日発行



秋晴れの校庭でポニーの写生会。みんな上手に描けましたか？

町長の月額報酬20%削減  
平成18年度町の各会計決算を認定

第3回定例会の報告 .....	2
私たちの一般質問 .....	4
議員だより～私の思い～ .....	7
18年度決算審査 .....	8
決算審査主な質疑 .....	10
議会の動き・あとがき .....	16

発行 中頓別町議会  
編集 議会広報編集特別委員会  
お問合せ／北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6  
tel (01634) 6-2244 (直通) / fax 6-1155

# 平成18年度9会計決算を認定 来年度から浜高商業科募集停止に



## 第3回 定例会

### 中農高の利活用、後期高齢者医療制度、 鍾乳洞の保全活用など3議員が一般質問

平成19年第3回定例会は、9月18日から20日まで3日間の会期で開かれました。

野邑町長の行政報告では、浜頓別、中頓別、猿払の三町村、三議会による存続要請にもかかわらず、道教委が示した「公立高等学校配置計画」により、浜頓別高等学校商業科が平成20年から生徒募集を停止することが伝えられました。

また、利用者の交通安全対策のため、寿パークゴルフ場入り口付近の国道に右折レーンが設置されることも報告されました。

一般質問では、三議員が、救急救命に関する姿勢や中農高の利活用、障害者自立支援法と天北厚生園への対応、来年度から本格的にスタートする後期高齢者医療制度の問題点、保存と活用の両面が求められる鍾乳洞の方向性などを質問。

町側提出の議案では、町長はじめ、教育長など特別職の月額報酬を大幅に減額する条例案のほか、一般会計補正予算などが、いずれも原案どおり可決されました。

19日から20日にかけては、全議員で構成する「決算審査特別委員会」が開かれ、6点の意見付きで、平成18年度9会計決算のすべてが認定されました。

議員からは、最終日に「道路整備に関する意見書案」が発議され、全会一致で議決されました。

# 第3回定例会で 決まりました



## いきいきふるさと常任委員会閉会中の調査事項決定!

いきいきふるさと常任委員会では、定例会と定例会の間(閉会中)に、議案(事件)の下調べの機関として活動するほか、予備調査機関として、自主的に項目を決め調査(所管事務調査)を行っています。

次回定例会までに調査すべき項目として、次の8点が決まりました。

- 環境基本計画・環境基本条例について
  - 自治基本条例等について
  - 基本計画(第2次実施計画)について
  - 学校施設(中高、敏音知小等)の利活用について
  - 天北厚生園の施設整備(移転)問題について
  - 中長期行財政運営計画・行財政改革の施策について
  - 国保病院の運営状況について
  - こども館の運営状況について
- これらの調査は、町側の作業の進捗状況を測りながら実施されるため、すべての項目について調査されない場合があります。

調査結果は、第4回定例会の冒頭に報告されます。

## 議決された議案

### ●特別職の職員の給与等に関する条例(一部改正)

町長及び副町長(現在は不在)の月額報酬(月給)を減額する条例改正です。これにより、平成19年10月分の報酬から、町長700,000円→560,000円(▲20%)、副町長595,000円→535,000円(▲10%)となります。

### ●教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例(一部改正)

教育長の月額報酬(月給)560,000円を平成19年10月分から504,000円(▲10%)に減額する改正です。

### ●郵政民営化法等の施行に伴う関係条例の整理に関する条例(制定)

10月1日からの郵政民営化に伴い、町条例に使用されてきた郵便局等の文言を整理する条例です。

### ●平成19年度一般会計補正予算

歳入歳出予算の総額に4,851千円を追加し、予算総額を32億9千7,583千円とするものです。主な内訳は、民生費の障害者福祉費における国、道などの負担金返還、衛生費における病院費(医療機器購入)出資金などによる増額補正です。

### ●平成19年度国民健康保険病院事業会計補正予算

ガス滅菌器、超低温フリーザーなど、医療機器購入代金5,364千円にかかる資本的収支の補正予算です。これにより、資本的収支の総額は、34,073千円となりました。

### ●平成19年度国民健康保険事業特別会計補正予算

葬祭費の増額補正ほか、国保病院医療器械購入にかかる繰出金1,554千円などを主な内容とする補正予算です。これにより、収支予算の総額は、3億758千円となりました。

### ●平成19年度介護保険事業特別会計補正予算

平成18年度介護給付費などの精算にかかる返還金1,105千円を主な内容とする補正予算です。これにより、収支予算の総額は、1億89,323千円となりました。

### ●平成18年度一般会計歳入歳出決算ほか8会計

一般会計歳入歳出決算ほか、8会計の昨年度決算を認定しました。認定にあたり、6点の意見が付けられました。詳しくは、決算審査特別委員会の項目(8ページ)をご覧ください。

## 意見書

### 道路整備に関する意見書

昨年末に道路特定財源の見直しに関する具体策が示され、直し作業が続いています。北海道の道路の実情を踏まえ、引き続き道路整備が強力に推進されるよう国に次の事項を要望する意見書です。

一 道路整備を計画的かつ着実に進めるため、受益者負担という道路特定財源の趣旨に反することなく、必要な財源を確保すること。

二 今後の具体的な道路整備の中間計画を作成するにあたっては、道民のニーズを幅広くみ取り、道民の期待に応えるべく、道路整備を計画的かつ着実に推進すること。

三 高規格幹線道路ネットワークの早期形成を図るため、現着工中の区間はもとより、「当面着工しない」とされた区間についても、早期に事業化を図ること。

四 今後、道路が老朽化するため、適時適切な修繕等による効率的な管理を行うこと。

■提出者・村山義明、賛成者・星川三喜男/提出先・衆参議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣



高規格救急車 室内の様子

# 私たちの一般質問

ここが聞きたい、知りたい

第3回定例会では、後期高齢者医療制度の問題点、中農校の活用や鍾乳洞の活用方針などについて3名の議員が一般質問を行いました。

## 救急救命に福祉の視点を 東海林 繁幸

**問**

① 高齢化や医療体制、福祉の視点から考え、救急車の利活用にこれまで以上の対応ができるよう救急体制と予算確保を図るべきではありませんか。

② 現在の救急体制（職員12名・救急救命士2名）は浜頓別（14名・6名）、歌登（14名・5名）と比較して不十分です。今後どのように体制強化を図りますか。

③ 職員の定員15名のところ現員は12名であり、欠員を生じていますが、その根拠と実情を伺います。

**問** 本町の1～7月までの救急出動は、27件（浜頓別30件、歌登17件）であり、他町との人口割合から見ても頻度は高いと思います。住民にとって病院の存在と同様に救急体制の充実を願う気持ちは大きく、12名体制となっても職員の休暇は十分でなく精神保健上問題があります。自宅待機者2名が駆けつけなければ救急出動ができない現実を町民は知りません。この際の遅れが命にかかわるとすれば町の責任は重大です。1名でも増員することはできませんか。

**答**

① 町民意識として救急車を呼びたくない、我慢をする傾向は承知しています。早く応急処置することにより一命が助かるケースもあり、広く活用することを周知するため、今後は高齢者の救急講習で呼びかけを行います。

② 消防支署の救急体制から、救急救命士は4名必要です。現在の有資格者は2名のため、今後1名を養成し、本年度内に有資格者1名の採用を予定しています。

③ 欠員を1名補充し、本年度中に12名体制となります。本来なら、夜間勤務者が4名必要ですが、現状は2名です。ほかの2名は、自宅待機者から招集しています。現状は、休職者が1名おり、実員10名の中で職員の協力を得て救急業務を遂行している状況です。

（鳥田消防支署長）

**答** ただちに増員するとは言えませんが、実情は把握しており、増員について検討します。  
（野邑町長）



高規格救急車